

令和8年度（令和7年度実施）

高知県公立学校教員採用候補者選考審査

筆記審査（専門教養）

中学校 高等学校 特別支援学校 中学部・高等部

国語

受審番号	氏名
------	----

【注意事項】

1 翻査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。

2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。

3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。

マーク例 (良い例)  (悪い例)   

○ 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
○ 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

万	千	百	十	一
①	②	③	④	⑤
②	①	②	①	①
③	②	③	②	②
④	③	④	③	③
⑤	④	⑤	④	④

記入例

（受審番号1 2 3 4 5の場合）

4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校・高等学校】、【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。

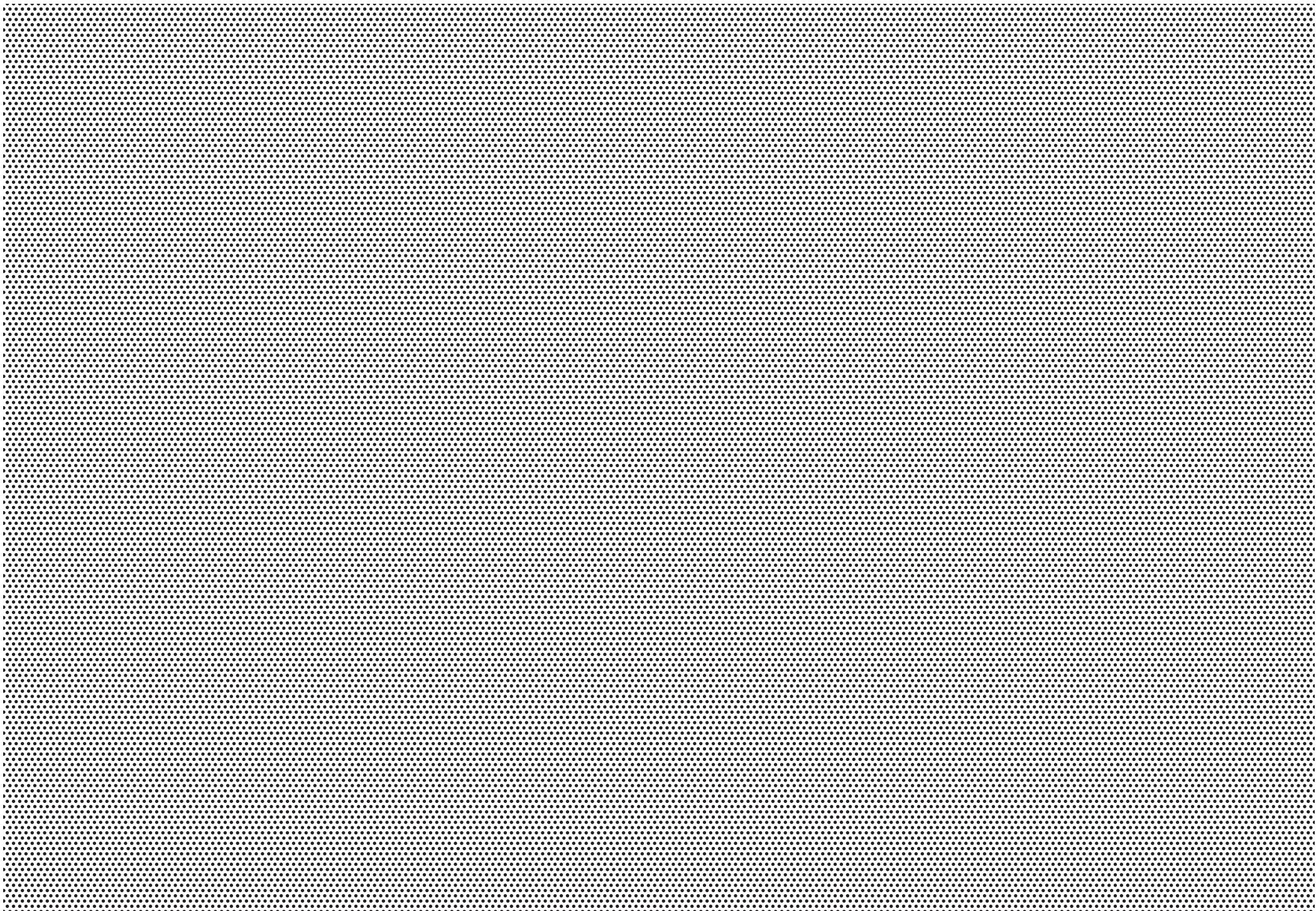
5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 **ア** と表示のある問い合わせに対して **b** と解答する場合は、下の（例）のようにアの解答欄の **b** をマークしてください。

（例）

〔ア〕 **○** ● **○** **○** **○** **○** **○** ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ 〔○ ○ ○ ○〕

なお、一つの解答欄に対しても、一つ以上マークしないでください。

6 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



【共通問題】

第1問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 不動産業者にアッセン|してもらい、土地を購入した。 ア

- a 特殊な訓練で、彼女のセンザイ的な能力を引き出した。
- b 彼の小説は、文壇にセンプウを巻き起こした。
- c 人物、適性ともに申し分ないと思い、スイセンした。
- d 彼の絵は、センサイな筆使いで描かれていた。
- e 彼は仕事がよくできるため、皆のセンボウの的だ。

(2) 多くの需要にこたえるため、セイフン機を更新して増産に努めた。 イ

- a 良い印象を得るために、事実をフンショクして話してしまった。
- b 雜駁な答弁を繰り返す大臣に対して、批判がフンシユツした。
- c 彼女は、相手の無責任な態度にフンゼンとしていた。
- d 様々な意見が出て、予算委員会がフンキユウした。
- e 大阪府には、日本最大のコフンが存在する。

(3) 明日の大雪に備えるよう、市民に注意をカンキした。 ウ

- a コストと利益をカンアンして、新商品の開発を進めた。
- b 彼女は昨日の野球の試合について、友人とカソダソした。
- c 会社の危機に際して社長は、幹部をショウカソした。
- d 明治維新後、地方のカソリは新しい制度に戸惑つた。
- e 休日の始発電車の車内は、カンサンとしている。

(4) 彼女は頬杖をツきながら、グラウンドの様子を眺めていた。 エ

- a 彼が本墨をツいた瞬間、白熱の好ゲームは幕を閉じた。
- b 街の明かりがツくと、次第に夜の景色が美しく変化した。
- c 母は夕食を済ますと、汚れた皿を水にツけながら洗い始めた。
- d 父は帰つてくるなり、不機嫌そうにため息をツいた。
- e 先日観に行つた絵画展で、彼女はゴッホの魅力に取りツかれた。

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 読み方の間違つてゐる熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

□ オ

a 颽爽 さつそう b 疾病 しちやう c 弛緩 しりかん d 出納 しゅつのう e 辟易 へきえき

(2) 「韓非子」の「韓」という字を構成する部首「韋」の名称として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

□ カ

a ふるとり b ほこへん c かわへん d おおがい e なめしがわ

3 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の四字熟語とその意味の組み合わせとして適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

□ キ

- | | | |
|--------|---|------------------------------|
| a 行雲流水 | ↓ | 自然の流れに任せて行動すること。 |
| b 佳人薄命 | ↓ | 性格の良い人ほど、若くして亡くなることが多いということ。 |
| c 金科玉条 | ↓ | 人が絶対的なよりどころとして守るべき規則や法律のこと。 |
| d 浅学非才 | ↓ | 学問が未熟で、才能も乏しいこと。 |
| e 周章狼狽 | ↓ | 大いにあわてふためくこと。 |

(2) 慣用句の使い方として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

□ ク

- | |
|-----------------------------------|
| a 私は賛同しかねたが、上司の顔を立てるために黙つていた。 |
| b ピンチ・ヒッターとして、彼に白羽の矢が立つた。 |
| c 美味しそうな高級料理を見て、思わず食指が動いた。 |
| d 名画に囲まれて育つたので、彼は評論家のように目鼻がついている。 |
| e 彼女はいつも合いの手を入れながら、私の話を聞いてくれる。 |

4 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の各文の傍線部の「ようだ」の活用形のうち、比喩（たとえ）の用法で使われている助動詞を、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 □ ケ

- a コーラのような炭酸飲料が飲みたい。
- b 彼の見解はどうやら間違っていたようだ。
- c あの選手のようにうまくなりたい。
- d 兄はもう学校へ行つたようだ。
- e 新しく発売された本が飛ぶように売れた。

(2) 次の各文の傍線部「の」について、体言代用の用法で使われている格助詞を、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 □ コ

- a 僕の読んだ本はこれだ。
- b 狹いの汚いのと文句を言う。
- c 今すぐに行くのがよいと思う。
- d 春の風が吹いた。
- e 課長は話の好きな人だ。

第2問

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

1 次の文は、文章中の【A】～【E】のどこに置くのがよいか。最も適切な箇所を、あとのa～eの中から一つ選びなさい。【ア】議論の錯綜を避けるために敢えて言おう。

a 【A】 b 【B】 c 【C】 d 【D】 e 【E】

2 文章中の①に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。【イ】

a ところで b しかし c したがって d 例えば e もちろん

3 傍線部②「こうした非常時」の説明として最も適切なものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 ウ

- a 一人で誰とも会わずに文学を読んでいる時。
- b 音楽が人と人との間の距離を縮めている時。
- c ソーシャル・ディスタンスを強いられている時。
- d 人に会うときに顔をそむけることが相手にいぶかられる時。
- e 一枚の絵を前に何千人の人が群がっている時。

4 傍線部③「盜難」と同じ組み立てで構成されている熟語を、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 エ

- a 拘束
- b 避難
- c 懐疑
- d 善戦
- e 産直

5 傍線部④「しかし音楽は違う」とあるが、その理由として最も適切なものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 オ

- a 音楽は、文学や美術と違い、ソーシャル・ディスタンスという感染防止の新しい生活様式が生まれる前から「孤独な鑑賞」を楽しむ芸術だったから。
- b 音楽は、文学や美術と違って、空気振動をリアルタイムで共有する芸術であり、人と人とがその場の空気を共有することによって存在するから。
- c 音楽は、文学や美術と芸術形式が異なつており、一人で楽しむことも、複数人の集まりで楽しむこともできるから。
- d 文学と美術は、人々を熱狂させることができる芸術ではないが、音楽は人々を熱狂させることができる芸術であるから。
- e 音楽にも「楽器」というモノが存在するが、「楽器」は音を奏てるモノであり、文学の「本」や美術の「絵画」とは異なるモノであるから。

6 傍線部⑤「オートメーション化を反省に受け入れることは危うい」のはなぜか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□ 力

- a 簡単にネットで何でもできてしまうことによって、いつでもどこでも人と会つているような錯覚を起こして、一人の時間をもつことができなくなる危うさがあるから。
- b ネットで簡単に人と会うことができてしまうため、実際に足を運んで人と会うことが億劫になり、コロナ禍のようにならざる危うさがあるから。
- c 「ネット飲み会」や「ネット帰省」に馴れてしまうことで、ソーシャル・ディスタンスが当たり前となつて人と会うときに半無意識に距離をとる危うさがあるから。
- d ネットを通して人と会うことはできるのだが、人ととの間の距離が縮まっているわけではなく、実際には会えなくなつてゐるという事実を見失う危うさがあるから。
- e 実際の人に会うことで得られる「空気の共有」に対して忌避感を覚えてしまい、どんなに頑張つてみても距離が縮まらないという社会になる危うさがあるから。

7 傍線部⑥「注意を向けたい」とあるが、「注意を向ける」と同じ意味となる慣用句として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□ キ

- a 目をつぶる
b 目を光らす
c 目をかける
d 目を細める
e 目をつける

8 例文の（ ）部分に最も適切な言葉を、次のa～eの中から一つ選びなさい。□ キ

8 傍線部⑦「音楽の幻聴を聴いていただけなかもしれない」の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ク

a 音楽とは、人と人が集い、空気振動をリアルタイムで共有することによって存在するものである。したがって、複製技術がどれほど発達しても、「録音」という種類の音楽は、大衆には認められないということ。

b 音楽には、ライブ音楽とメディア音楽という性格が異なる二種類がある。メディア音楽は「録音された音楽」ということで「録音」と呼ばれており、幻聴と扱われることがあるということ。

c 音楽といえば、ライブ音楽のことであり、その場でステージと客席が一緒になって作り上げるものである。したがって、ライブ音楽を録音した「コンテンツ」は、本物の音楽と同じであるということ。

d 映画が一種の幻灯であるということは、映画がその場で演じられているのではないからである。同様に、メディア音楽もその場に不在の人間が奏でているものが機械を通して聴こえてくるので、幻聴といえるということ。

e ネットによって配信される音楽は、「ネット飲み会」や「ネット帰省」と同様に、自分で足を運んで聴いた音楽ではない。そのため、ある歌手の歌声が本物かどうかも分からなから幻聴のようなものだということ。

9 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ケ

a コロナ禍以前はライブ音楽が音楽の主流であったが、コロナ禍以降は情報伝達の利便性の向上によって、メディア音楽が主流となつた。その結果、人々は生の音楽を聴く必要性を感じなくなつてしまい、ライブ音楽は商売があがつたりである。

b 音楽だけが、人々を熱狂させて一体感を味わうことができる芸術であり、文学や美術にはない特性を有している。その音楽が「録音」と呼ばれる時代になつてしまつたことは、音楽の未来にとつては由々しき事態である。

c 音楽は、人と人が空気を共有することによって存在するものであり、複製技術によって録音された「音楽」は「録音」であつて、音楽ではない。「音楽」と「録音」は「似ても似つかないもの」と区別することが大切である。

d 芸術の形式でいうと、音楽と芝居は似ている。したがつて、「録音された音楽」と「生の音楽」が違うものとして区別されることと同様に、映画が演劇と同じものではないというように区別されていることは常識的である。

e ライブ音楽とメディア音楽は「まったくの別もの」と考えることによつて、それぞれの音楽のよさを知ることができる。ライブ音楽のよさは、人ととの距離を縮めることであり、メディア音楽のよさは、いつでも音楽を聴けることである。

第3問 次の文章は『大鏡』中の一節である。これを読んで、あの問い合わせに答えなさい。

(注) 入道殿……藤原道長。

御嶽……奈良県吉野郡にある吉野山の最高峰、金峯山のこと。
 帥殿……これちか藤原伊周。
 博奕……ばくち博打。双六のこと。
 二所……入道殿も帥殿も。一人との意味。

1 傍線部①「かたはらいたく思され」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ア

- a 可哀そうだとお考えになり
- b 苦々しくお思いになり
- c 無理があるとお怒りになり
- d 仕方がないとお諦めになり
- e ばかばかしいとお思いになり

2 傍線部②「まわりたまへり」とは、具体的に誰がどこへ行ったことを表現しているのか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□イ

- a 入道殿が帥殿の邸に行つたこと。
- b 帥殿とその随身が御嶽に行つたこと。
- c 入道殿が御嶽に行つたこと。
- d 帥殿が入道殿の邸に行つたこと。
- e 入道殿とその随身が御嶽に行つたこと。

3 傍線部③「思されて」、傍線部④「おしのごはせたまふ」の主語の組み合わせとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□ウ

- a 入道殿 ③ ④ 入道殿
- b 帥殿 ③ ④ 人
- c 入道殿 ③ ④ 入道殿
- d 帥殿 ③ ④ 帥殿
- e 人 ③ ④ 人

4 傍線部⑤「殿をはじめたてまつりて、まわりたまへる人々、あはれになむ見たてまつりける」とあるが、どのような理由からか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□エ

- a 双六などに興じるのは、大人がするような遊びではないから。
- b 帥殿が何の疑いも抱かずに、入道殿の策に乗せられているから。
- c 入道殿に対し、帥殿がどのような態度に出るか予想がつかなかつたから。
- d 入道殿の行動に対し、帥殿の気持ちが和らいだように見えたから。
- e 双六をしたところで、帥殿が入道殿との勝負に勝つとは限らないから。

5 傍線部⑥「さ」は、具体的にどのようなことを指しているか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□オ

- a 帥殿が双六に負けるという予想のとおりだということ。
- b 双六の勝負がしばらくなかつたとおりだということ。
- c 入道殿の御気性のとおりだということ。
- d 真実を究明するという予想のとおりだということ。
- e 帥殿の企てのとおりだということ。

6 傍線部⑦「うちたたせたまひぬれば」とは誰の様子について言及したものか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 力

- a 帥殿
- b 入道殿
- c 入道殿と帥殿
- d 帥殿と人
- e 入道殿とまゐりたまへる人々

7 文章中の空欄Aに当てはまる助詞として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 キ

- a もこそ
- b かは
- c やは
- d もぞ
- e や

8 傍線部⑧「しなしつつぞ」を品詞分解したものとして正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ク

- a サ行変格活用動詞「す」の連用形+名詞+接続助詞+係助詞
- b 副助詞「し」+サ行四段活用動詞「なす」の連用形+格助詞+係助詞
- c サ行変格活用動詞「す」の連用形+サ行四段活用動詞「なす」の連用形+格助詞+係助詞
- d 過去の助動詞「き」の連体形+サ行四段活用動詞「なす」の連用形+格助詞+係助詞
- e サ行四段活用動詞「しなす」の連用形+接続助詞+係助詞

9 傍線部⑨「たてまつら」とは誰の誰に対する敬意か。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ケ

- a 入道殿の帥殿に対する敬意
- b 作者の入道殿に対する敬意
- c 人の帥殿に対する敬意
- d 作者の帥殿に対する敬意
- e 帥殿の入道殿に対する敬意

10 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。

□ □

a 帅殿は、御嶽参りの道中に政敵である入道殿に対して一矢報いたいと思っていたが、入道殿の家臣が気を配り警戒を怠らなかつたので、無事、都に帰還した。

b 帅殿は計画が未遂に終わつたため、弁解のため入道殿の邸を訪れたが、緊張の余りおどおどした様子になり、入道殿を始めその家臣からたいそう気の毒がられた。

c 入道殿は帥殿を邸に迎え、うわさを信じることなく、双六勝負などで帥殿を親しみ深く取り扱いなさる様子が見て取れた。

d 入道殿も帥殿も、双六に熱中すると周りが見えなくなつてしまい、裸になつて服の裾を腰にからげて夜中や明け方まで勝負を行い、結局引き分けになつた。

e 帅殿は周りの者から幼稚な性格だと心配されていたとおり、双六の勝負でも結果的に具合の悪いことが起つてしまつた。

第4問 次の漢文を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。ただし、設問の都合上、文字を改め、送り仮名・返り点を省いた箇所がある。

（『孟子』告子章句 上）

（注）告子…中国戦国時代の思想家。

杞柳…曲木細工の材料。

楢棬…曲木の器。

將…それとも。

戕賊…「戕」も「賊」もそこなうという意味。

湍水…うずまいている水のこと。

決…せきを切つて落とすこと。

搏…手でたたくこと。

頽…人の額のこと。

1 二重傍線部A「順」、B「與」の読みとして最も適切なものを、次のa)~e)の中からそれぞれ一つ選びなさい。 A ア B イ

A 「順」

a のつとりて
b したがつて
c わかちて
d ならひて
e のりて

B 「與」

a ために
b ともに
c か
d あたへ
e と

2 傍線部①「猶以杞柳爲桮棬」の書き下し文として最も適切なものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 ウ

a 猶ほ以て杞柳と爲すは桮棬たるがごとしと
b 猶ほ桮棬と爲すは以て杞柳のごとしと
c 猶ほ杞柳は桮棬と爲すを以てするがごとしと
d 猶ほ以て桮棬を爲るは杞柳とするがごとしと
e 猶ほ杞柳を以て桮棬を爲るがごとしと

3 C 、 D に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。 イ

e d c b a
上下左右左右上下
| | | | |
裏 表 裏 下 下 D

4 傍線部②「人無有不善、水無有不下」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□オ

- a 人に良い悪いの意識がないのと同様、水もまた自然である。
- b 人が自ら悪行をしないのと同様、水も自ら下には流れない。
- c 人に善不善はなく、水は自然にしたがつて流れる。
- d 人の本性は善であり、水は下方に流れるのだ。
- e 人の性格はそれぞれであり、水に決まつた性質もない。

5 傍線部③「激而行之、可使在山」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□カ

- a 川の流れをせき止めて逆流させれば、山の上に水を登らせることもできる。
- b 川の水を勢いよく流せば、山を削り取ることもできる。
- c 川の水を大量に使えば、山の上に畑を作ることもできる。
- d 川の流れをせき止めて使えば、山すそに水をたくわえることもできる。
- e 川の流れに人が乗れば、山の方にたやすく移動することもできる。

6 傍線部④「然」は、ここではあることのたとえとして使われている。その説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。□キ

- a 外的な力が水に加わり、その動きを抑制していることのたとえ。
- b 外的な力が働きかけ、水の性質とは異なる動きをさせていることのたとえ。
- c 外的な力を使つて人間が水本来の性質をうまく利用していることのたとえ。
- d 外的な力によつて水本来の動きを加速させていることのたとえ。
- e 外的な力が水に加わることで、水の動きを停滞させていることのたとえ。

7 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。

ク

- a 告子は杞柳と梧棬のたとえを使って、曲木細工の材料を用いて曲木の器を作るのは自然なやり方であることを述べるとともに、人間も自然に振る舞うことで仁義の道に近づくことを説いた。
- b 告子は杞柳の本性に順応するから梧棬が作れるのか、それとも杞柳の本性に逆らい矯正するから梧棬が作れるのかは人にもよるが、自然に振る舞ついても梧棬が作れるわけではないと説いた。
- c 孟子は、告子の意見に一部賛同はするものの、基本的に人間はそのままでは仁義をなすことはできず、努力をして初めて仁義の道に近づくことができるということを説いた。
- d 孟子は基本的に告子の意見とは異なり、人をどのように鍛えれば誤った道に進まないようになるのかについて、水が本来備えている性質を基にして丹念に述べ、鍛錬の重要性を説いた。
- e 孟子は人の本性は本来善いものだと述べるが、それは杞柳に本来備わっている性質が梧棬を作るのに適しているのと同じで、人の性は仁義をなすことに向いているのだと説いた。

【選択問題 中学校・高等学校】

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 故事成語とその説明として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ア

a 「捲土重来」

↓晩唐の詩人杜牧が楚の項羽について詠んだ詩「烏江亭に題す」の中の、「土を卷いて重ねて來たる」による。一度敗れたものが、非常な意気込みでやり直すこと、または、勢力を盛り返してくることをいう。

b 「奇貨居くべし」

↓『史記』呂不韋伝に、次のような話が採られている。秦の商人呂不韋が、趙に人質となつて冷遇されている秦の王子の子楚を見て、「奇貨居くべし」と言つて子楚に金を与える、のちに子楚が莊襄王となるや、その宰相となり、文信侯に封ぜられた故事による。珍しい品は後に値上がりするから、買っておいて時機を待つべきである。転じて、よい機会に乗ずることをいう。

c 「背水の陣」

↓『史記』淮陰侯列伝に漢の淮陰侯韓信が趙と戦つた折の逸話が載せられている。その際、韓信は川を背にして陣取り、味方に決死の覚悟で戦わせ、大勝した。そこから失敗すれば滅びる覚悟で全力を尽くすことをいうようになった。

d 「鼎の軽重を問う」

↓『春秋左氏伝』にある、楚の莊王と周の定王との逸話に由来する。楚の莊王は、周王室の宝物である九鼎の重さを尋ねたが、鼎そのものが周の度量衡に関する秘密であったことから、それを問うことは周の租税制度の仕組みを暴く行為につながるものであった。その故事より、相手の秘密を晒し明らかにすることをいう。

e 「隴を得て蜀を望む」

↓『後漢書』岑彭伝に、後漢の光武帝の逸話が収められている。その昔、光武帝は隴の地に兵を進め、隗囂を攻撃したが、隗囂が降伏したら、南の蜀も平定したいと言つたという故事から、人の欲望には限りがないことをいう。

2 次の(1)～(4)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 次の説明に該当する作品として適切なものを、あとの中から一つ選びなさい。
 □イ

具体的な時期については諸説あつて確定できないが、およそ十二世紀の終わり頃原型が成り、その後増補・加筆などがあつて、十三世紀前半に成立したと考えられる。内容は、一九七の説話を十五巻に収めた説話集で、収録されている説話は、本朝(日本)・天竺(インド)・震旦(中国)の三国を舞台とし、「仏教説話」「世俗説話」「民間伝承」の三種からなる。

- (2) 次の説明に該当する歌人として適切なものを、あとの中から一つ選びなさい。
 □ウ
- a 宇治拾遺物語 b 発心集 c 沙石集 d 十訓抄 e 古今著聞集

アララギ派を代表する歌人で近代写生短歌の巨峰とされ、正岡子規の写生説を深めた「実相観入」の理論を樹立した。旧制中学時代から短歌を作り始め、明治三十九年、伊藤佐千夫に入門した。人間感情を強烈に表した第一歌集「赤光」は日本近代文学の傑作とされ、連作「死にたまふ母」五十九首は、実母の死をうたつたものである。

- a 石川啄木 b 若山牧水 c 会津八一 d 佐佐木信綱
 e 斎藤茂吉

(3) 中世の文学の流れに関する説明として誤っているものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。

工

- a 中世にも様々な物語が作られたが、鎌倉時代末期になると擬古物語は衰え、室町期から近世初頭にかけて、通俗的な短編の物語草子が誕生した。『鉢かづき』『一寸法師』『物くさ太郎』『酒呑童子』といった作品で、御伽草子という。
- b 鎌倉時代の軍記には、保元・平治の乱に取材した『保元物語』『平治物語』、無常観を底流にして平家一門の盛衰を描いた『平家物語』がある。特に『平家物語』は中世軍記物語の代表作で、『平家物語』を琵琶の伴奏に合わせて語る平曲も後に完成した。
- c 鎌倉時代の初期に藤原良経主催の「千百番歌合」や後鳥羽院主催の「千五百番歌合」など、大規模な歌合が催され、多くの歌人が活躍した。また、後鳥羽院の命によつて「八代集」の最初を飾る『古今和歌集』が撰進された。
- d 鎌倉時代初期に成立した『無名草子』は、『源氏物語』をはじめとする物語や歌集、小野小町や清少納言などの女性について論評を加えたもので、わが国の評論史上、最初の作品として重要な位置を占める。
- e 中世には、絶え間のない戦乱と天災に世の無常を悟つて、世俗との交際を絶ち、隠者となつた者が多かつた。彼らは、自由な境地に身をおいて社会や人間を見つめ、優れた隨筆を残した。その代表作が鷗長明の『方丈記』と兼好法師の『徒然草』である。

(4) 昭和前期の文学の流れに関する説明として誤っているものを、次のa)~e)の中から一つ選びなさい。

オ

- a 大正期の「種蒔ぐ人」「文芸戦線」以来のプロレタリア文学はさらに発展し、昭和三(一九一八)年、ナップの機関誌「戦旗」が創刊され、小林多喜二が「蟹工船」、徳永直は「太陽のない街」を発表した。
- b 昭和前期の俳句は河東碧梧桐の主宰する「ホトトギス」が中心で、碧梧桐のいう「花鳥諷詠」が基調となつた。そこから水原秋桜子・山口誓子らのすぐれた新人が輩出したが、まもなく秋桜子や誓子らは「ホトトギス」を去り、秋桜子は俳誌「馬酔木」を創刊、新興俳句運動を推し進めた。
- c 大正十三(一九二四)年に創刊された「文芸時代」の同人横光利一・川端康成らが活躍し、新感覺派と称された。その後を継ぎ新興芸術派と呼ばれた世代には、井伏鱒二・梶井基次郎などがいる。
- d 昭和十年代に入りモダニズム詩とプロレタリア詩のいずれもが退潮すると、雑誌「四季」に拠つた堀辰雄・三好達治らが知的で抒情的な作風の作品を書いて多く読まれた。また、独自の詩風で際立つ中原中也、晩年に文語詩に回帰した萩原朔太郎も「四季」にかかわった詩人である。
- e 戦局が厳しくなると、文学者たちは報道員として戦地に送られ、多くの戦記小説が書かれたが、文学的な高みにはほど遠く、文学の空白時期であった。こうした時期にも、堀辰雄・太宰治・中島敦らは自己の芸術を守り、質の高い作品を書いた。

【選択問題 中学校】

第6問 次の1・2の問いに答えなさい。

- 1 次の(1)と(2)は、平成29年3月告示の中学校学習指導要領国語における「第2 各学年の目標及び内容」の第1学年の「2 内容〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に
関する事項」及び第3学年の「2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと」
の言語活動例に示されている事柄である。 ア イ に該当するものを、
あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、 ア に注意して話や文章
の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

- a 文の成分の順序や照応など文の構成
- b 慣用句や四字熟語などの成り立ち
- c 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係
- d 類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句など
- e 指示する語句と接続する語句の役割

(2) イ 読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたり
する活動。

- a 論説や報道などの文章を比較するなどして
- b 報告や解説などの文章を批判的に
- c 異なる形式で書かれた複数の文章を
- d 論理的な文章や実用的な文章を
- e 詩歌や小説などを

2 次の(1)～(3)は、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（平成29年7月）に示されている「内容」に関する問題である。それぞれの問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文章は、第1学年の内容 2 「思考力、判断力、表現力等」B 書くことの「推敲」に関する解説の一部である。文章中の ウ に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

自分の書いた文章を見直すことによって、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することが推敲である。その際、ウ を確かめながら文章を読み返すことが大切である。

- a 説明や具体例、描写などに着目して、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているかどうか
- b 読み手の立場に立った客観的な視点から、目的や意図に応じた表現に整えることができているかなど
- c 自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかなど
- d 書く相手や目的に照らして、構成や書き表し方が適切なものとなっているか
- e 書き手としてだけでなく、読み手の立場に立って、伝えようとすることが伝わるかどうか

(2) 次の文章は、第2学年の内容 1 「知識及び技能」(3) 我が国の言語文化に関する事項「伝統的な言語文化」に関する解説の一部である。文章中の 工 に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

古典に表れたものの見方や考え方の中には、長い年月を経てもなお現代と共通するものもあれば、現代とは大きく異なるものもある。そのことに気付き、新たな発見をしたり興味・関心を高めたりしていくことが古典に親しむためには重要である。また、古典に表れたものの見方や考え方は、作品の登場人物や作者の思いと密接に関連しており、工 を通して、作品を貫くものの見方や考え方を知ることもある。

- a 舞台となつていて時代の様子や作者が置かれていた状況などを知ること
- b 登場人物の言動や作者の思いを考えること
- c 作品を多面的・多角的な視点から評価すること
- d 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知つたりすること
- e 作品の主題と登場人物の設定の仕方とを結び付けること

(3) 次の文章は、第3学年の内容 2 「思考力、判断力、表現力等」 A 話すこと・聞くことの「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」に関する解説の一部である。文章中の **□** オ **□** に該当するものを、あとの a～e の中から一つ選びなさい。

表現の仕方を評価するとは、話の内容だけでなく、**□** オ **□** について価値付けることである。また、話し手の表現の仕方のよい点を、自分の表現に取り入れることを視野に入れて聞くことも重要である。

- a 語句の選択、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなど、聞き手に対する配慮や表現の工夫
- b 目的や場面に応じた話題の設定、集めた材料の比較、分類、関係付け、根拠の適切さや論理の展開など
- c 情報としての信頼性、自分の考えとの共通点や相違点、話の組み立てや場の状況に応じた言葉の選び方など
- d 場合によつては、話の途中で問い合わせたり質問を促したりしながら理解を深めていくといった聞き手への働き掛け
- e 話の構成や論理の展開、語句や文の使い方、声の出し方や言葉遣い、資料や機器の活用の仕方など

【選択問題 高等学校】

第6問 次の1・2の問いに答えなさい。

- 1 次の(1)～(3)は、平成30年3月告示の高等学校学習指導要領国語における「第2款 各科目」に示されている事柄である。□ア□～□ウ□に該当するものを、あとの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、(1)は「現代の国語」の「1 目標」、(2)は「現代の国語」の「2 内容「思考力、判断力、表現力等」A 話すこと・聞くこと」、(3)は「現代の国語」の「3 内容の取扱い」に示されている事柄である。

(1) □ア□国語の知識や技能を身に付けるようにする。

- a 社会生活に必要な実社会に必要な
- b 社会生活や日常生活に求められる
- c 実社会に求められる
- d 生涯にわたる社会生活に必要な

(2) 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、□イ□など、話の構成や展開を工夫すること。

- a 目的や状況に応じて根拠の示し方や説明の仕方を考える
- b 相手の反論を想定して論理の展開方法を検討する
- c 相手の理解が得られるように表現の方法を検討する
- d 目的や場に応じて言葉を選び話題を考える
- e 相手の反応を予想して論理の展開を考える

(3) 「C読むこと」に関する指導については、□ウ□単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

e	d	c	b	a
20	10	30	20	10
）	）	）	）	）
50	30	40	30	20

2 次の(1)と(2)は、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（平成30年7月）における「第1章 総説」の「第4節 国語科の内容」と「第2章 国語科の各科目」の「第2節 言語文化」に関する問題である。それぞれの問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、「2 「知識及び技能」の内容」の「(2) 情報の扱い方に関する事項」に関する解説の一部である。文中の □ 工 に該当するものを、あとの中から一つ選びなさい。

「現代の国語」では、推論の仕方を理解し使うこと、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと、引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと、「論理国語」では、□ 工 について理解を深め使うこと、推論の仕方について理解を深め使うことを示している。

- a 文章の妥当性や信頼性について、多面的・多角的な視点から評価する方法
- b 事象を具体的に描写することによって自分の思いや考えを表現する方法
- c 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法
- d 目的や読み手に応じて、情報を組み合わせて整理する方法
- e 複数の文章や資料を基に、必要な情報を相互に関係付ける方法

(2) 次の文は、「3 内容「知識及び技能」の「(2) 我が国の言語文化に関する事項」の「ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。」に関する解説の一部である。文中の□才に該当するものを、あとのがくの中から一つ選びなさい。

生徒は、古典を音読するのに必要な文語のきまりや訓読の仕方について、中学校で学習している。ここではそれを踏まえ、古典の世界に親しむことを目指し、文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを、古典を読むために必要なものに限定している。古典を読むとは、古典の原文を逐語的に現代語訳にすることではなく、「思考力、判断力、表現力等」の「B読むこと」の(1)の指導事項を身に付けることを指している。そのためには、□才ことのみが目的とならないよう、原文に加え、内容の取扱いの(4)のイに示しているとおり、理解しやすいように教材を工夫したり、指導の方法を工夫したりする必要がある。

- a 作品や文章に関する歴史的・文化的背景や、当時のものの見方や考え方などを知識として理解する
- b 我が国の言語文化の中で磨かれてきた、独特的文化的背景を有する語句の意味や用法を理解する
- c 古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容してきた多様な言語芸術や芸能などを知識として理解する
- d 文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを断片的な知識として理解する
- e 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法を個別の知識として理解する

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～4の問い合わせに答えなさい。

1 次の文は、令和3年6月に文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引」～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の「第1編 障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」の一部である。

文中の ア イ ウ に当てはまる語句を下の1～9から一つずつ選びなさい。

③ 合理的配慮の決定方法・提供

(中略)

合理的配慮は、子供一人一人の障害の状態等を踏まえて教育的ニーズの整理と必要な支援の内容の検討を通して、個々に決定されるものである。(中略)
これを踏まえて、設置者及び学校と本人及び保護者により、 ア を作成する中で、発達の段階を考慮しつつ、次の「④合理的配慮の観点」を踏まながら、合理的配慮について可能な限り イ を図った上で決定し、提供されることが望ましい。その内容は、 ア に明記するとともに、個別の指導計画においても活用されることが重要である。

④ 合理的配慮の観点

合理的配慮については、個別の状況に応じて提供されるものであり、これを具体的かつ網羅的に記述することは困難であるが、中央教育審議会初等中等教育分科会報告においては、合理的配慮を提供するに当たっての観点を、① ウ 、②支援体制、③施設・設備について類型化した整理が試みられている。

- | | | | |
|---------|-------------|--------|-----------|
| 1 教材・教具 | 2 年間指導計画 | 3 合意形成 | 4 指導要録 |
| 5 効率化 | 6 個別の教育支援計画 | 7 課題解決 | 8 教育内容・方法 |
| 9 障害特性 | | | |

<input type="text"/> ア
<input type="text"/> イ
<input type="text"/> ウ

- 2 次の文は、令和5年3月に厚生労働省より示された「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会 報告書」の一部である。
 文中の **□ イ** ~ **□ ク** に当てはまる語句を、下の a ~ d からそれぞれ一つ選びなさい。

強度行動障害とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人々の暮らしに影響を及ぼす行動が、**□ イ** 起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている「**□ オ**」である。

(中略)

□ カ によって平成13年に採択されたICF（国際機能分類）では「障害」の背景因子について、**□ キ** 因子と環境因子という観点から説明されている。ICFにおける環境因子とは「物的環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境の特徴が持つ促進的あるいは阻害的な影響力」とされ、強度行動障害を有する者への支援にあたっても、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など**□ キ** 因子と、どのような環境のことで強度行動障害が引き起こされているのか環境因子もあわせて分析していくことが重要となる。こうした個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を**□ ク** していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| □ イ | a ごく稀に | b 夜間に集中して |
| | c 著しく高い頻度で | d 一時的に |
| □ オ | a 障害 | b 重複障害 |
| | c 疾病 | d 状態 |
| □ カ | a UNESCO | b WTO |
| | c WHO | d IAEA |
| □ キ | a 心理的 | b 行動的 |
| | c 発達 | d 個人 |
| □ ク | a 発見 | b 決定 |
| | c 把握 | d 調整 |

3 次の文は、「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示） 第1章 総則 第3節 教育課程の編成」の一部である。
 文中の **□ ケ** ~ **□ ス** に当てはまる語句を下の a ~ d からそれぞれ一つ選べなさい。

カ 知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の小学部においては、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、道徳科、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、**□ ケ** 児童に履修させるものとする。
 また、**□ ヲ** については、児童や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。

キ 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部においては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育及び**□ サ** の各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、**□ ケ** 生徒に履修させるものとする。また、**□ シ** については、生徒や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。

ク 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の**□ ス** を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。その際、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導するものとする。

- ケ** a 特定の b 全ての
 c 特性のある d 希望する

- ヲ** a 外国語活動 b 総合的な学習の時間
 c 日常生活の指導 d 社会及び理科

- サ** a 技術・家庭 b 職業
 c 生活単元学習 d 職業・家庭

- シ** a 外国語活動 b 情報
 c 外国語科 d プログラミング活動

- ス** a 見方・考え方 b 段階に示す内容
 c 学年の目標 d 配慮事項

- 4 次の表は、令和5年度の高知県公立特別支援学校中学部、高等部（専攻科を含む）卒業生の進路状況をまとめたものである。
表中の下線部①、②の説明として正しいものを、下のa～eからそれぞれ一つ選びなさい。

		福祉的就労				
①就労継続支援		就労移行	療養介護	②生活介護	自立訓練	その他
高等部卒業者数	A型	B型				
6	46	2	0	20	1	57

- a 医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の支援を行うサービス
- b 一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行うサービス
- c 常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供するサービス
- d 一般就労に移行した人に、就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行うサービス
- e 一人暮らしに必要な理解力・生活力等を補うため、定期的な居宅訪問や随時の対応により日常生活における課題を把握し、必要な支援を行うサービス

- ① セ
② ソ

